

平成17年度 第1回 小中学校の望ましい在り方検討委員会要旨報告

日時 6月29日(水)午後7時から9時10分まで

会場 勝山市民会館2階第1研修室

平成17年度検討委員15名の皆様に、山教育長から委嘱書を交付しました。
17年度検討委員の皆様は、次のとおりです。

(順不同・敬称略)

	区 分	職 名 等	氏 名
1	市区長連合会	村岡町区長会長	笠川 剛士
2		荒土町区長会長	堀内 博
3	学識経験者	市商工会議所会頭	荒井 由泰
4		小児科医師	河北 美紀子
5		児童文学作家	平泉 和美(大庭 桂)
6	市小中学校校長会	市中学校校長会会長	南部 勇
7		市小学校校長会会長	竹原 幸雄
8	市市壮年連絡協議会	遅羽町壮年連絡協議会副会長	坂東 昭治
9	市公民館運営審議会	勝山公民館運営審議委員	山本 英樹
10	市PTA連合会	鹿谷小学校PTA会長	伊藤 史朗
11		南部中学校PTA会長	山内 澄
12	市幼稚園父母の会連合会	北幼稚園父母の会副会長	澤 充
13	市保育園父母の会連合会	しろき保育園父母の会会長	山内 公夫
14	市内在住青年	大学生	山崎 祥子
15	市教育委員会	教育委員会委員長職務代理者	多田 誠治

委員長に多田誠治氏、副委員長に竹原幸雄氏を選出しました。

平成17年度第1回検討委員会の要旨は、次のとおりです。

- 1 平成16年度の間接報告を事務局より説明しました。
- 2 各地区の児童生徒の実態と推移を説明しました。
- 3 事務局から教育環境の面から、望ましい学級・学校の規模について、説明をしました。

中学校では、学年4クラスの12学級あれば、全教科の教員がそろいます。

9クラスでは、1教科が免外、6クラスでは、2教科が免外となります。

(* 免外とは、専門外の教科を1年間に限り、臨時に免許証を与えて教えることをいいます。)

また、教員数や生徒が少なくなると、部活動ができなくなったり、成り立たないようになってきます。このことから、12クラス370人だと、すべての教科の教員がそろうので、中学校では、これが適正規模であると考えられます。

小学校は、将来的に福井県は、1クラス35人学級になります。36人から2クラスですので、このことから考えると1クラス18人となります。

コミュニケーションをする時には、1グループ5～6人は必要となり、賛成・反対・中立の3グループで、18～20人となります。少人数では、切磋琢磨が不足します。2グループでは、なかなか話し合いが進みません。また、1学級では、クラス替えができない等変化がありません。できれば1学年2学級が望ましいと考えています。

- 4 このあと、各委員から次のような意見が出ました。
 - ・ 私の5年生の子どもは2クラス、4年生と2年生の子どもは1クラスにそれぞれ学んでいます。2クラスの子どもは、クラスごとに対抗心があり切磋琢磨していますが、1クラスの子どもは、交友関係の変化が少ないと感じています。
 - ・ 多様化した時代に対応できる教育にしていって欲しいと思います。当市の人口規模だけから言えば、小学校3～4校、中学校1～2校ということも考えられます。
 - ・ 考え方は、市町村合併と同じであると思います。子どものこと、全体のことを考えるという方向に賛成したいと思います。
 - ・ 孫が小学校に通っているが、すぐに適正規模ができるかどうか疑問に思っています。適正規模を思っても、地域住民は、自ら言い出せないと思います。若い人が地域から丸岡、福井方面に出ていっています。若い人が、地域に生き残る方法を考えなければと思っています。
 - ・ 小・中学校とも、いろいろな組み合わせパターンを作り、それぞれのメリット、デメリットを検討したら良いと思います。
- 5 このあと、7月から8月にかけて、中間報告に沿い、事務局が小学校校下ごとに住民対話集会を実施し、話し合いを持つこととしました。

そして、各検討委員も地元校下の説明会に出席することとしました。第2回検討委員会は、住民対話集会終了後開くことを了承し、閉会しました。